



楓の誉

R4.8.31(第5号)
文責: 瀧上 佳宏

「スタートアップ」の学校に

前期後半がスタートし、二週目となりました。しかし、ご承知の通り、新型コロナウイルスの感染状況はなかなか下火になりません。ただし、陽性者も一人だけの場合は学級閉鎖にしないなど、その対応は少し緩和されています。徐々にインフルエンザ等に似た見方になってきているのかもしれませんが。

ところで、「スタートアップ」という言葉を聞かれたことはありますか？ 本来は産業界の用語で、急成長をする組織(企業)のことを指します。世界的にはフェイスブックやグーグル等、国内ではメルカリやスタートアップ等がそれに当たると言われています。また、スタートアップには、①自身の持つ経験・知識・スキルをもとに、目標達成に向けて自走できる「即戦力」の人材が求められる、②新たな考え方や技術などを導入し新しい価値を生み出すこと、すなわち「イノベーション」が欠かせない、などが特徴とされています。

スタートアップに対して、着実な成長を図るビジネスは、「スモールビジネス」と呼ばれています。そして、一般に学校という組織は、このスモールビジネスの発想で経営されていることが多いように感じています。

しかし、新時代の合志楓の森中学校は、スタートアップの発想を持つ学校にしていきたい

と、私(校長)は考えています。前述の①については、義務制の校長に直接的な人事権はないので詳述しませんが、本校は「即戦力」の人材に恵まれているなど感じています。

一方、②については、「やる気」次第ではないでしょうか。あるいは「リスクを怖がらないチャレンジ精神」。組織のメンバーにイノベーションを志向する意識があれば可能だと思っています。イノベーション(=技術革新)という言葉ぐらいですから、その際、ICTは欠くことのできない重要な要素でしょう。本校では、すでに一人一台のタブレット端末を活用し、オンライン授業による学びの保障、情報共有や共同編集等の機能を活用した「主体的・対話的な深い学び」、「プレゼン教育」と銘打ったICT版のことば教育など、様々な新しい取組にチャレンジしてきました。また、本年度は、四十五分・七時間授業の導入のように、教育課程の枠組みにもメスを入れています。

もちろん、これまで学校で積み上げられてきた学習指導上・生徒指導上の知見を軽視するものではありません。特に本県教育委員会が推奨する「熊本の学び」を着実に推進することは、本県教育の未来に必ずや良い結果をもたらすであろうと思っています。

ただし、人はすぐに成果を求めたがるものでもありません。学力・学習状況調査等の定量的な評価において、短期間で目に見える結果を出す(急成長する)ためには、スタートアップ的な発想も必要ではないかと思えます。「本校が新設校ゆえにできること」というご意見があるかもしれませんが、もしそうであれば、なおさら有り難いことです。

〇〇+英語のセットで

熊本県が掲げる「英語教育日本一」が達成できるか否かは分かりませんが、「英語は大事！」は議論の余地もないところです。夏休み明け集会の校長講話では、「どこに住むどこで学ぶどこで働く」というタイトルで話をしましたが、結局のところ「やっぱり英語」ということへ落とす話になりました。話の概要は本校HPに講話のプレゼンを載せていますので、そちらをご覧くださいと思います。

ところで、本年度の全国学力・学習状況調査(全学調)では英語は実施されず、私はそれがとても残念でした。なぜなら、昨年度の熊本県学力・学習状況調査(県学調)の現三年生の英語の結果が、とても良かったからです。

このように英語も優秀な三年生ですが、先日、三年二組の英語の授業を見ると、中には現在完了形で苦戦している生徒を見かけました。もちろん完了形が使えれば、スマートな英語になるでしょう。でも大丈夫。大事なのは英語でコミュニケーションをとろうという意思です。その意思があれば、必ず伝わります。英語だけを頑張れと言っているわけではありません。理系の人は数・理+英語。スポーツを頑張る人はスポーツ+英語、音楽を頑張る人は音楽+英語という風に、英語をセットで能力を高めることが、

これからの時代に大事になってくると思っています。



現在完了形と格闘
(3年2組の授業から)



学校HPの
QRコード